

漁海況月報

平成 15 年 7 月 1 日

No. 7

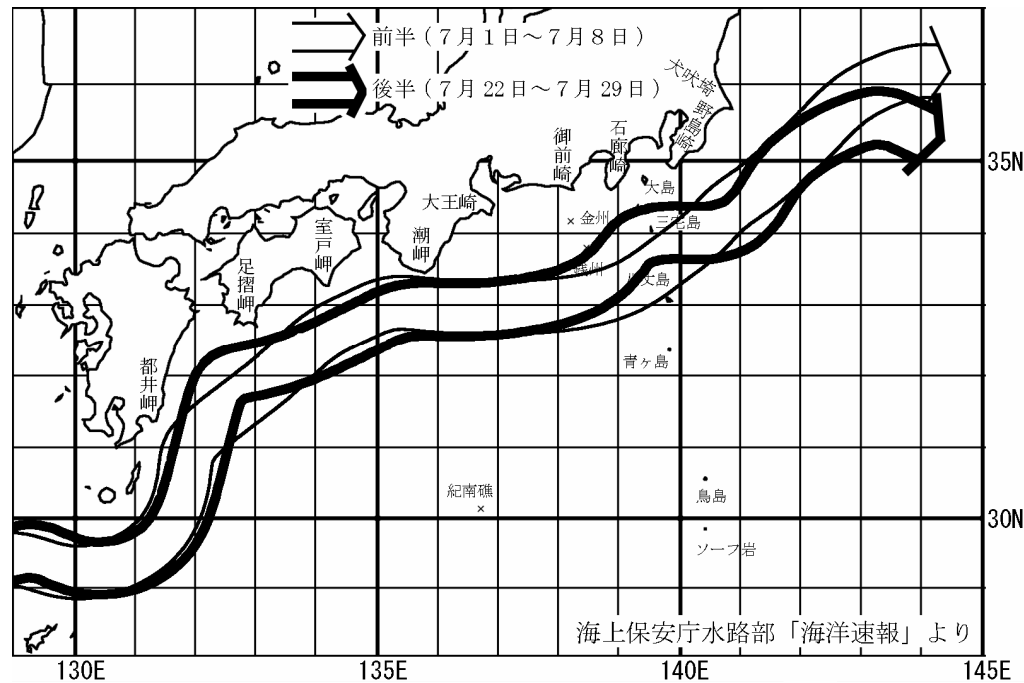
~7月31日

静岡県水産試験場

(電話 054 627 4815)

静岡県水産試験場伊豆分場

(電話 0558 22 0835)



【黒潮流路】

黒潮は、7月上旬にD型からN型に変化した。その後は、7月末までN型基調で推移し、遠州灘沖 33° ~ 33° 30'N 付近を東進、三宅島と八丈島の間を通った後北東に流去した。この間、黒潮流軸の変動に伴い、駿河湾、相模湾内には暖水が波及したが、沿岸域への影響はなかったと思われる。また、遠州灘沖合海域は7月を通じて冷水域となっていた。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は、相模湾側では 21 ~ 23 台、駿河湾東部では 21 ~ 24 台、駿河湾西部では 21 ~ 24 台で経過し、高め基調であった先月までと一変し、平年よりも低め基調となった。駿河湾東部の低温傾向が著しく、平年に比べ 1 ~ 3 低めとなった。

【竿釣近海カツオ】

県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海カツオの水揚量は 149 トンで前年同期の 88% であった。魚価は 156 円 / kg で、前年同期を下回った。

中型竿釣船の記録（QRY）及び御前崎市場での調査によれば、7月の漁況はおおむね以下のとおり推移した。

上旬：35° ~ 39° N、144° ~ 148° E（表面水温 20 ~ 25 ）と 35° ~ 38° N、150° ~ 154° E（表面水温 20 ~ 24 ）で漁場が形成され、小、中、極小、大カツオを漁獲した。

中旬：36° ~ 39° N、145° ~ 150° E（表面水温 20 ~ 24 ）と 35° ~ 40° N、150° ~ 154° E（表面水温 19 ~ 24 ）で漁場が形成され、前者は中、小、極小、大カツオ、後者は小、極小、中カツオを漁獲した。静岡県近海では、主に沿岸竿釣り船が新黒瀬から駿河湾内にかけて操業し、小（体長 44cm モード）、極小、中、大カツオを漁獲した。

下旬：38° ~ 40° N、147° ~ 152° E（表面水温 18 ~ 22 ）の広範囲に漁場が形成され、小、中、極小、大カツオを漁獲した。静岡県近海では、主に沿岸竿釣り船が三宅島周辺から銭州にかけて操業し、小（体長 44cm モード）、中、大、極小カツオを漁獲した。

竿釣近海カツオ水揚量（県内主要5港）

期 間	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚量 / 隻 (トン)	平均単価 (円 / kg)
15年7月上旬	69	12	5.8	117
中旬	41	19	2.2	224
下旬	39	10	3.9	154
15年7月計	149	41	3.6	156
14年7月計	170	21	8.1	227
13年7月計	187	57	3.3	204

【まき網】

小川港では、マイワシは 1,401.6 トン水揚され、平年同期（過去5年平均：18.1 トン）の 77 倍と極めて好調であった。カタクチイワシは 49.7 トン水揚され、平年同期（3.8 トン）の 13 倍と極めて好調であった。

沼津港では、マイワシは 1,813.5 トン水揚され、平年同期（35.2 トン）の 52 倍と極めて好調であ

2003年7月

定地水温の旬平均値 ()

(下段は偏差)

期 間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上 旬	22.4	21.6	21.5	21.6	22.5	22.7	22.2
	0.4	0.3	-0.1	-1.3	-0.4	-0.0	-0.4
中 旬	22.6	22.3	21.6	22.3	22.0	22.8	22.4
	-0.4	0.6	-0.2	-1.6	-2.1	-1.0	-1.1
下 旬	22.9	22.9	22.9	23.7	23.4	23.5	23.2
	-1.4	0.2	-0.1	-1.2	-1.4	-1.3	-1.7
月平均	22.6	22.3	22.0	22.6	22.7	23.0	22.6
	-0.5	0.4	-0.1	-1.4	-1.2	-0.8	-1.1

った。カタクチイワシは13.1トン水揚され、平年同期(50.6トン)の26%と不調であった。

静浦港では、マイワシは221.1トン水揚され、平年同期(16.1トン)の14倍と極めて好調であった。カタクチイワシは274.2トン水揚され、平年同期(319.8トン)の86%とやや不調であった。

伊東港では、マイワシは18.8トン水揚され、カタクチイワシは45.2トン水揚された。

[サバ棒受網]

小川港に水揚げされたサバ類は前月の水揚げ量(838トン)の約2倍の1,867トンで、ほとんどがゴマサバであった(マサバ9kg)。漁場は三宅島近海および銭洲に形成され、26~27cmの大きさのものが主に漁獲された。魚体が小さいことや漁獲量が多いことから、1kg当たりの平均単価は48円と安かった。

小川港 サバ類(棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	延隻数	1隻当り (トン)	漁 場
平成15年 上旬	496	5	23	21.5	銭洲、三宅、神津
7月 中旬	454	5	24	18.9	銭洲、三宅
下旬	918	7	24	38.2	銭洲、三宅、高瀬
計	1,867	17	71	26.3	- - - - -
平成14年7月	572	11	49	11.7	三宅、高瀬、三本
平成13年7月	1,261	17	92	13.7	三宅、高瀬、銭洲

[シラス船曳網]

1日1か統当り水揚量は、駿河湾で410kg、遠州灘で576kgだった。主要6港平均では527kgと前年同期(561kg)の94%、平年同期(過去5か年平均:547kg)の96%であった。7月半ば以降水揚が増加したため、先月まで続いていた不漁から脱し、7月の総水揚量は1,447トンと、前年同期(1,050トン)の138%、平年(1,454トン)の100%にあたり、平年並みとなった。平均単価は534円/kgと平年同期(512円/kg)並みに推移した。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量 (トン)	日数	延統数	平均漁獲量 (kg/統/日)	平均単価 (円/kg)
新 居	120.8	20	314	385	651
舞 阪	555.1	19	897	619	536
福 田	324.0	18	473	685	516
御前崎	113.8	21	249	457	487
吉 田	216.6	20	435	498	446
静 岡	116.4	16	377	309	664
平成15年7月計	1,446.7	-	2,745	(平均)527	(平均)534
平成14年7月計	1,050.4	-	1,871	561	657
平成13年7月計	1,783.1	-	3,353	532	585

[定置網]

平成15年7月、伊豆半島東岸大型定置網8か統(伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)における水揚量は461トンであった。1漁場当たり水揚量57.7トンは、前年20.5トンの2.8倍、平年値(昭和57~平成14年平均値)34.0トンの1.7倍であった。

魚種別にみると、サバ類294トン(前年の11.2倍、平年の3.9倍) シイラ35.1トン(前年の2.3倍、平年の2.9倍) サワラ(サゴシ)32.3トン(前年の69倍、平年の326倍) マアジ(ジンダ)21.7トン(前年の77%、平年の1.4倍) カタクチイワシ17.1トン(前年の1.1倍、平年の67%)の順に多かった。

サバ類は伊豆山、北川及び谷津を中心にゴマサバ(尾叉長の範囲24~41cm)主体に入網し、7月のサバ類の漁獲量としては昭和57年以降で最も多かった。シイラは川奈と北川を中心に入網し、尾叉長の範囲は71~91cmであった。サワラ(サゴシ)は7月9日に川奈で21トンと特異的に入網し、近年にないまとまった漁獲となった。マアジ(ジンダ)は富戸と北川を中心に入網し、尾叉長のモードは11~14cmであった。カタクチイワシは伊豆山を中心に入網し、被鱗体長の中心は11.0~12.5cmであった。

漁場別水揚量は、サバ類の漁獲が多かった北川(85.5トン)、サバ類及びサワラ(サゴシ)の漁獲が多かった川奈(77.2トン)、サバ類の漁獲が多かった谷津(68.2トン)の順であった。

[調査船の動向]

- 富 士 丸
~7月13日 東沖カツオ・ビンナガ調査(13日間)
- 駿 河 丸
7月1~2日 地先定点観測(駿河湾・遠州灘・伊豆)(2日間)
- 7月3日 駿河湾にてシラス分布調査(1日間)
- 7月4日 駿河湾内にてADCP潮流計調査(1日間)
- 7月7~8日 駿河湾内にてサクラエビ調査(2日間)
- 7月9~10日 駿河湾内にて静大の深層水調査(2日間)
- 7月14日 駿河湾内にてサクラエビ調査(1日間)
- 7月15日 駿河湾内にてROV作動調査(1日間)
- 7月16~17日 駿河湾内にてサクラエビ・サバ調査(2日間)
- 7月22~23日 三宅島沖にてサバ漁場環境調査(2日間)
- 7月24~25日 駿河湾内にてサクラエビIKMT調査(2日間)
- 7月28~29日 金洲の瀬にてサバ標識放流調査(2日間)
- 7月30~31日 波勝崎沖・天竜沖にてマリンロボ調査(2日間)